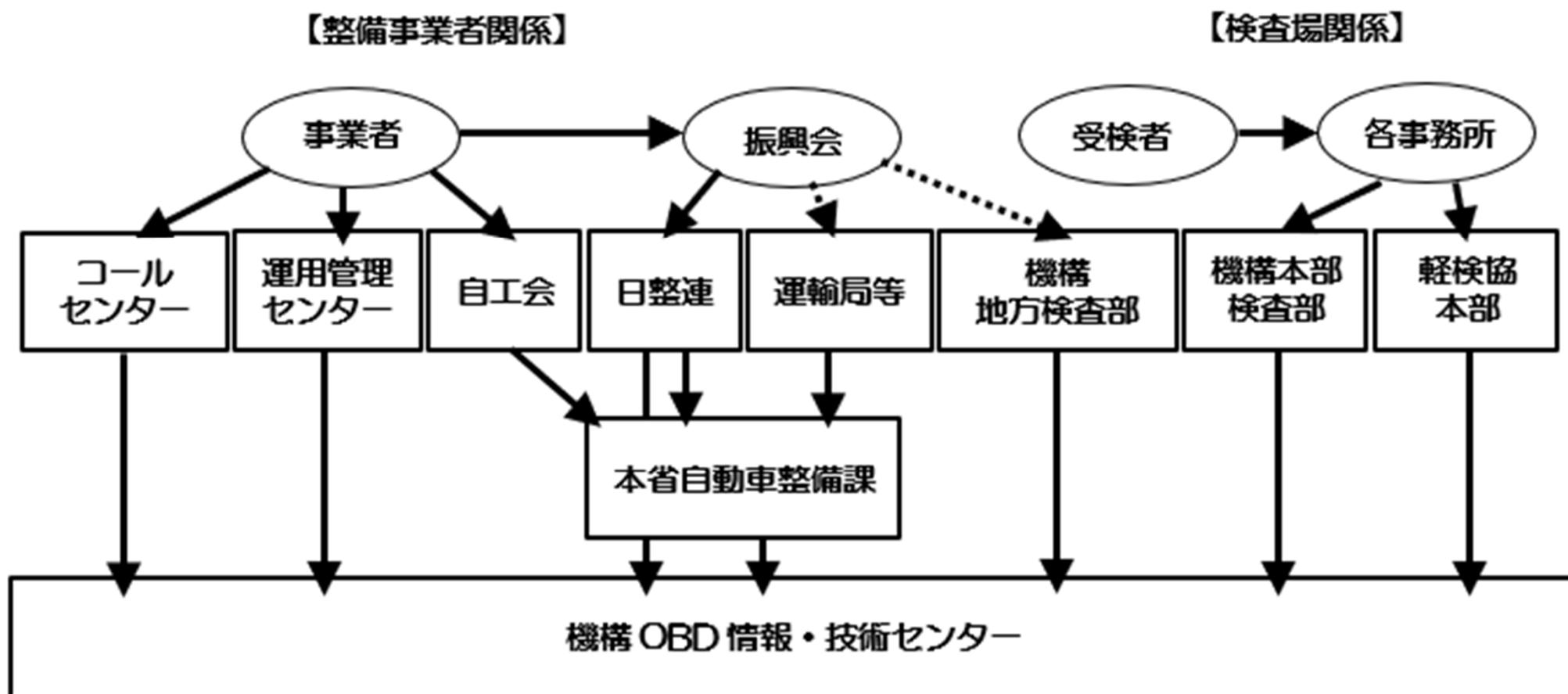


報告されている課題

報告されている課題の収集

- 令和6年10月1日から法令が適用となったOBD検査を通じて得られた課題について把握するため、整備事業者関係者及び検査場関係者から情報収集を実施。
- 情報収集フローは下図のとおりであり、独立行政法人自動車技術総合機構において一元的に課題を集約することとしている。

※情報収集期間：令和6年10月1日～11月7日



項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
1	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイハツのOBD検査対象車において、標準搭載されているスイッチにて車線逸脱警報装置をオフにして、<u>OBD検査を実施したところ不適合</u>となった。 ● 機能オフスイッチがある場合でも、オンにした状態で、<u>OBD検査は実施しなければならないのか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車メーカーにも確認しましたが、<u>車線逸脱警報装置のオン/オフはOBD検査の結果に影響を及ぼしません。</u> (オフにしたことのみをもって不適合にはなりません。)
2	軽検協	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査対象装置である<u>任意装備の安全系の装置を取り外したい</u>旨の相談を受けた。 ● OBD検査対象装置を取り外した場合は、(装置が存在しないため)自己診断がエラーとなり、<u>特定DTCが検出されると考えているが、装備義務のない任意装置であっても、保安基準に不適合となるのか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>搭載が義務でない装置</u>(if fittedの保安基準が適用される装置)については、これを取り外しても、<u>保安基準不適合となりません。</u> ● なお、その場合、<u>自動車メーカーが定めるところにより、当該メーカー系列の整備工場(ディーラー等)において、当該装置を無効にするとともに特定DTCが記録されないようにする改造(ソフト又はハード)とその証明書が必要となります。</u>また、運転席の表示等により、当該装置の機能がオフとなっていることを運転者が理解できるようにする必要があります。(最終報告書P30参照)
3	軽検協	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>燃料装置を改造</u>(ガソリン⇒ガソリン LPG)をした車両で<u>OBD検査が実施できない(合否判定されない)</u>ケースがあった。(型式:3BD-S700B改) ● 受検者が架装メーカーに問い合わせたところ、コネクタを抜くことで、OBD検査可能との案内があった。 ● 指定されたコネクタを抜いて、再度OBD検査を実施したところ<u>適合</u>となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 改造の具体的内容が明らかではありませんが、<u>排出ガス関係の通信が成立しない場合、特定DTCが記録されている場合には基準不適合となります。</u>
4	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査において<u>不適合になっている主な要因</u>は何か教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査が開始されたばかりで、対象型式に偏りがあるため、今後傾向が変わる可能性がありますが、<u>1か月間の主な不適合要因としては「通信途絶系の特定DTC」、「レディネスコードなし」、「通信不成立」</u>です。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
5	機構	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査不適合となった車両の不適合状況を確認したところ、<u>ウルトラソニックセンサ(リヤコーナ左右)(リヤセンサ左右)通信途絶</u>と示されていた。 ● 当初よりOBD検査対象装置として衝突被害軽減制動装置(AEBS)が該当し、また特定DTCの設定は、各自動車メーカーが設定すると説明されていたが、当該装置は「前方障害物との衝突による被害を軽減するための制動装置を作動させる装置をいう」と規定されているにも関わらず、<u>車両後面に装備されたセンサの不具合を特定DTCとしOBD検査不適合とする判定は、いき過ぎた判定ではないのか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査の対象装置となる自動運行装置や、かじ取装置(高度運転者支援ステアリングシステム)は、<u>さまざまなセンサからの情報により制御されています。</u> ● ご指摘のウルトラソニックセンサについてもその一つであり、<u>当該センサが故障した場合、OBD検査の対象装置にも影響が生じるおそれがあることから、その場合、当該装置のDTCも特定DTCに該当します。</u>
6	機構	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>排出ガスに係る特定DTCが検出され、OBD検査が不適合であった場合は、修理後、原動機の一定時間作動や、一定距離(速度)の走行等を行い、自己診断を完了(レディネスコードの記録を完了)させてから、再度、検査を実施することとなる。</u> ● しかしながら、道路運送車両の保安基準細目告示別添48に規定されるレディネスコードの中には、<u>自己診断を実施・完了されずとも記録されるもの(連続監視のレディネスコード)があることを踏まえると、OBD検査実施上の前提である1つ以上の装置(システム)にて自己診断が実施・完了されないまま、OBD検査を実施してしまうおそれがある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘のとおり、一定距離の走行等を行わずとも記録されるレディネスコードはありますが、<u>修理等を行って、検査を実施する前に、一定距離の走行等を義務付けることは、検査実施の負担が大きくなるため、いずれか1つのレディネスコードが記録されていれば、検査成立としています。</u>

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
7	機構	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査が不適合であっても、警告灯が点灯していないものがあり、「過去故障」が特定DTCとなっているのではないかと推測される。 ● 「過去故障」は、故障の前兆の場合もあれば、前方カメラ等はフロントガラスの一時的な結露等でもDTCが記録されてしまうようなので、このようなDTCで不適合となっている車両が多いのではないかと推測。 ● このため、OBD検査用サーバーに記録されているOBD検査不適合となった車両のDTC情報を検証する必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備用スキャンツールにおける「過去故障」の定義は統一されていませんが、特定DTCが記録されている場合、保安基準に適合しない故障の存在が推断される状態にあります。 ● なお、ご指摘の「フロントガラスの一時的な結露で記録されるDTC」により不適合となった例はありません。
8	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 持込検査において「過去故障」のDTCにより不適合になっている車両があると聞く。 ● 汎用の整備用スキャンツールでは「過去故障」のDTCを確認できないものもあり、今後、OBD検査対象車は、持込検査前に必ず「OBD確認」を実施し、「特定DTC」が検出されないことを確認してから、受検しないと不合格になる可能性がある。(現在、持込検査での認証工場のOBD確認は必須ではない。) ● サイバーセキュリティ法の影響もあり、汎用の整備用スキャンツールでは、確認できることが限られ、専業工場での整備に影響がでてしまう状況であることから、整備用スキャンツールで検出されない「DTC」への対応について検討して、指針を示していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備用スキャンツールの性能はメーカー・機種によりさまざまです。 ● 検査用スキャンツールにより「OBD確認」を行うことにより、特定DTCの有無を正確に確認可能です。 ● 検査用スキャンツールで「特定DTC」が検出され、お持ちの整備用スキャンツールでは確認できない、消去できない等の場合には、最寄りのディーラーに持ち込んでいただく必要があります。 ● 他方で、このような事例が増えると専業工場の負担が大きくなることから、あわせて、汎用スキャンツールの機能強化についても取り組んでまいります(参考資料2参照)。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
9	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定工場における完成検査の際、検査ラインにおいて、ブレーキテストや<u>スピードメータテストによる検査を実施</u>すると(通常時の走行と異なる挙動であるためか、)特定DTCが検出されてしまうことがあり、DTCを消去のうえ、再度OBD検査を実施してから保安基準適合証を交付しているケースがあったと聞く。 ● <u>同じような状況が予備検査場や自動車機構等の検査ラインでも発生する可能性があるのではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● (独)自動車技術総合機構及び軽自動車検査協会でのOBD検査は検査ライン入場前に実施するため、<u>同種事案は確認されていませんが、引き続き、注視してまいります。</u>
10	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査を実施し、<u>判定結果が表示されるまでの時間にスキャンツールごとに差がある。</u>早く判定されるよう改善できないか。 【デンソー製VCI】 10秒～30秒 【インターサポート製、オーテル製、日本ベンチャー製、バンザイ製】 1分～3分程度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 検査用スキャンツールは、型式認定試験により、全てのOBD検査対象車についてOBD検査を実施できることが確認されていますが、判定時間については、<u>メーカー・機種により異なります。(対象車両との相性等にもよります)</u> ● なお、オーテル製、日本ベンチャー製、バンザイ製の検査用スキャンツールを用いた際の判定時間については、P17別添1のとおり報告を受けております。
11	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● インターサポート社製「G-SCAN Z Tab」でディーゼル車のOBD検査を実施した際に判定までに10分程度かかってしまう。 ● インターサポートから対処方法を案内されたことから、解決したと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘の事案については、<u>インターサポート社が提供するアップデートを適切に実施することで解消されます。</u>
12	運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ● カーナビのテレビを走行中も視聴可能にするため、<u>車速センサーを改造</u>したことで特定DTCが検出される車両がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車速センサーはABS等の制御に用いられることから、<u>改造した場合、特定DTCが記録される可能性があります。</u>

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
13	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備作業後は、スキャンツールを使用してエラーコード等を消去しているが、その後、OBD検査を実施すると「レディネスコードなし」で不適合になってしまう。 ● メーカーに確認したところ、アイドル10分程度で、レディネスコードが記録されるとのことだが、<u>試運転を行わなければ記録されない</u>。 ● レディネスコードを記録するために、<u>大変な工数</u>がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>レディネスコードが記録される条件は車種ごとに異なります</u>が、特定の車種においてご懸念の課題があることについては、当該自動車メーカーに伝えています。
14	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● UDトラックの車両(OBD検査対象車)において、<u>電動パーキングブレーキコントロールユニットの制御プログラム修正のリコール</u>があり、ディーラーにてリコールの改修前に、OBD確認を実施したときは「<u>適合</u>」であったが、リコールの改修後に、OBD検査を実施したところ「<u>不適合</u>」となった。 ● 不適合の内容を確認したところ、「レディネスコードなし」となっていた。 ● リコールの改修の際に、<u>コントロールユニット等のプログラムの書き換え</u>により、「<u>レディネスコードなし</u>」となる場合があるため周知を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いただいた情報を当該自動車メーカーに伝え、対応を検討してもらっています。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
15	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリで、OBD検査の要否確認を行う際、<u>手入力した場合は「OBD検査不要」と表示されたが、車検証のICタグ読取りにより入力したときに「OBD検査要」と表示された</u>といった情報があった。 ● 同日中でなく、OBD検査開始年月日を跨いで実施した可能性もあるが、それ以外でこのような事象が発生するものか確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘のような事象が発生することはありません。 ● 検査開始年月日を跨いだり、手入力に誤りがあった可能性が考えられます。
16	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>「OBD検査」モードと「OBD確認」モードを誤って、選択してしまう可能性がある。</u> ● 例えば、検査員は検査モードをデフォルト設定にして、確認モード(変更)選択時のみ注意書きを表示するなど、取り違えることのないようにシステム改修していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>「OBD検査」モードと「OBD確認」モードの取り違いを防止するためのシステム改修を検討します。</u> (関連:資料4-2)
17	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>OBD確認をOBD検査と間違えてしまう。</u> ● OBD確認時にPDF出力される帳票について、使用者に対しての<u>OBD検査結果のお知らせが「OBD検査結果のお知らせ」となっており</u>、OBD確認時にPDF出力したものを添付してOBD検査をしていると判断してしまう事案があった。 ● 指定に関してはOBD確認時ではなく、OBD検査をしないとPDF出力できないようにするなどの対応が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>「OBD検査」モードと「OBD確認」モードの取り違いを防止するためのシステム改修を検討します。</u> (関連:資料4-2) ● PDF出力については、ユーザーのわかりやすさの観点から、「OBD確認」であっても「OBD検査結果」として交付・説明したいというニーズがあることから、このような仕様としていますが、<u>検査実施者が判別できるような記載(例:特別な記号や記載を入れる等)</u>を検討します。
18	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>エンジン未作動(イグニッションON)の状態でも、OBD検査が適合となる</u>ことがあります。 ● 法令違反(検査の一部未実施)となることを、注意喚起するのではなく、<u>システム上、OBD検査を実施できないようにしてほしい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査システムにおいて「イグニッションON」を判定することは、<u>技術的に困難</u>です。 ● 検査員の責任により、検査状態を適切に確保ください。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
19	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子車検証の券面には、OBD検査対象であることの記載がなく、ICタグに格納された情報を出力しないとOBD検査開始日が確認できない。 ● また、OBD検査開始日前に、特定DTC照会アプリでOBD検査の要否確認を行った場合、「検査不要」ということのみ表示され、OBD検査開始日がわからない。確認できるようにしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリで検査要否確認を実施し「OBD検査不要」となった場合は、結果欄の下にOBD検査開始日が表示されますのでご確認ください。 
20	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 「改造車」の場合、車検証の二次元コードを読み込むだけでOBD検査対象車であるにも関わらず、OBD対象外と表示される。 ● <u>手入力にて(改)を選択するとOBD検査対象車となった。</u> ● 混乱したので運用の要領書に説明がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「二次元コードの読み込み」又は「手入力」によって、<u>検査の要否判定が変わることはありません。</u> ● なお、改造車等で<u>類別区分番号欄が空欄の場合</u>、二次元コードの読み取ると、車両情報手入力のポップアップ画面が表示され、<u>類別区分番号の有無の入力を求められます。</u>(OBD検査対象外と表示されるわけではありません。) ● 備考欄等を確認のうえ、「あり」(類別区分番号の入力)または「なし」を選択して確定ボタンを押下してください。(P18 別添2参照)
21	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査対象車が、<u>OBD検査未実施</u>の状態でも、<u>保安基準適合証の交付、車検証の更新ができてしまう。</u> ● OBD検査未実施のまま、保安基準適合証が交付等ができないように、<u>システム側で対策</u>をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査対象車について、OBD検査未実施の場合、電子保安基準適合証を交付できないようにする<u>システム改修を検討します。</u>(関連:資料4-2)
22	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査結果参照システムで、拠点毎の実績をCSV形式で出力できるものの、<u>複数の拠点を一括出力できない。</u> ● <u>複数の拠点を一括で出力できるようにしてほしい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえて、来年度以降、<u>改修予定</u>です。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
23	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>OBID検査結果をWEBなどで簡単に確認できるようにしてほしい。</u> ● 会社のセキュリティが厳しく、外部アプリ等をインストールすることが容易でないため、OBID検査システムを利用できる者が限られているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリをインストールしなくても、<u>OBID検査結果参照システム(WEB)</u>で、OBID検査結果は確認可能です。ただし、セキュリティの確保等のため、利用できる者を整備事業者等に限っていることから、電子証明書(クライアント証明書)のインストールは必須としています。 ● お手数をお掛けしますが、利用登録手続きを行ったうえで、利用いただけますようお願いいたします。
24	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業場に確実に情報を伝達するため、特定DTC照会アプリのアップデートの情報やOBID検査用サーバーに不具合が発生したときの周知などの、重要な情報は、OBID検査ポータルサイトに掲載するとともに、<u>全事業場にメールで一斉送信していただきたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>今後、重要な情報についてメールで一斉送信することとします。</u>
25	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリで、車両情報を手入力する場合、半角文字となっており、<u>間違えて全角で入力するとエラーになる。</u> ● <u>全角で入力できる(エラーとならない)</u>ようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ご指摘を踏まえ、来年度システム改修します。</u> (準備会合で議論・回答)
26	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリで実施したOBID検査の「<u>要否確認</u>」の結果履歴をOBID検査結果参照システム等で、後からでも確認できるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBID検査結果参照システムでは、OBID検査の結果(適合/不適合情報)を出力する仕様としています。 ● <u>特定DTC照会アプリで実施した「要否確認」の結果は、PDFもしくはCSV出力が可能です</u>ので、後から確認したい場合は、こちらの機能を活用ください。 ● なお、OBID検査結果参照システムでは、「対象型式検索」によりOBID検査対象車かどうかの確認が可能です。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
27	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査結果参照システムで、検査結果実績を検索した際に、<u>OBD検査を実施した車両の情報が表示されないことがある。</u> ● 画面の縮小表示の操作をすると表示されるが、この操作を行わなくとも、表示されるように改善してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、<u>来年度改修予定</u>です。
28	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>管理責任者を登録するには、メールアドレスが必須</u>であるが、会社によっては、個人のメールアドレスを付与されていないことがあるため、<u>会社のメールアドレスなどの他者と重複するものでも登録できるようにしてほしい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者ごとに交付するIDは、メールアドレスと紐づけているため<u>重複登録は不可能</u>です。
29	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎回のアプリの起動設定に時間がかかることが不便に思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご使用の通信環境にも寄りますが、特定DTC照会アプリは、<u>数秒かからず起動され、著しく時間かかることはありません。</u>
30	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査をした後、<u>データが飛んでいるのか分からない</u>ので不安。「送信完了」など表示がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定DTC照会アプリにおいて。OBD検査(確認)の「実行」を押下し、<u>合否判定がされた時点で、既にOBD検査用サーバーに結果が記録されております。</u> ● したがって、合否判定されたことをもって、OBD検査用サーバーへの送信が完了したと理解いただければと存じます。
31	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査の履歴がパソコンにあった方が望ましい。(OBD検査結果参照システムにログインするのが手間) 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査の結果は、<u>特定DTC照会アプリ等からCSVファイルで出力可能</u>ですので、こちらを自社の管理責任のもと、PC等に保存してください。
32	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査結果参照システムを使いたいですが設定が複雑、システムに詳しくないと導入できない。 ● <u>分かりやすいセットアップ手順等の案内を希望</u>します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査結果参照システムも含め、OBD検査ポータルサイトに、操作マニュアルのほか、説明動画や「よくある質問」を掲載しておりますのでご活用ください。 ● また、設定方法等で不明な点がございましたら、OBD検査コールセンターにお問い合わせください。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
33	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな従業員や検査員が特定DTC照会アプリの習熟を図るため、「練習用」のモードを搭載してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社で点検整備を行う車両について「OBDC確認」モードを活用して習熟可能です。
34	軽検協	<ul style="list-style-type: none"> ● OBDC検査対象車にあつては、<u>排出ガス検査や速度計の検査を省略</u>してもいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存の点検整備・検査項目をOBDC検査に置き換えることについては、技術的妥当性を検証しつつ検討しています。 ● なお「速度計」は、OBDC検査の対象装置でないことから、代替は困難です。
35	指定	<ul style="list-style-type: none"> ● 車検証の備考欄に「OBDC検査対象」の記載がなかったが、特定DTC照会アプリで、「OBDC検査要」と判定されたため、運輸支局に問い合わせたところ、「OBDC検査対象車」であることがわかったものがあつた。 ● OBDC検査対象車かどうかは車検証を確認して判断するため、記載漏れがあると検査未実施のまま保安基準適合証を発行してしまうおそれがある。 ● 備考欄の記載漏れがないように対策をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の車検証(約200台)において、備考欄の「OBDC検査対象」の記載漏れがありました。多大なるご迷惑をおかけして申し訳ございません。 ● これらの車検証については、補正処理を行うとともに、再発防止策を進めているところです。 ● 本件は行政の瑕疵によるものですので、仮に、備考欄未記載の車両について、OBDC検査未実施となつた場合であっても、当該整備工場が処分されることはありません。
36	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 持込検査でのOBDC検査省略を目的とした「OBDC確認」の依頼を受けて、自社で点検整備を行っていない車両の「OBDC確認」を請け負う事業者がでてくること懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検整備を行わない「OBDC確認のみの実施」は認められません。 ● そのような事業者が確認された場合には、事実関係を確認し、事実であれば、行政処分及びIDの凍結を行います。
37	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信規格がISO13400(DoIP)の車両は、この旨を車検証の備考欄に記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車検証の備考欄への記載の必要性については、今後、検討してまいります。 ● なお、ISO13400(DoIP)の車両かどうかの情報は、OBDC検査ポータルに掲載している「対象車型式一覧」に記載されてますので、こちらより確認ください。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
38	振興会	● 10月1日以降、 <u>OB</u> D検査対象外の車両(国産車)に <u>OB</u> D確認を行うことは不可か。	● 可能です。
39	指定	● <u>OB</u> D検査対象車は、 <u>車検証の色を変える</u> などして <u>OB</u> D対象車であることを見落とすリスクを軽減してほしい。	● <u>OB</u> D検査対象判定のためだけに用紙の色を変えることは困難です。「車検証備考欄」をしっかりと確認ください。
40	振興会	● 多くの事業場が <u>OB</u> D検査対象車の入庫はまだ先の事と思い込んでおり、 <u>OB</u> D検査に対する意識が低いため、改めて <u>国から周知の徹底</u> をお願いしたい。	● <u>OB</u> D検査の対象車両は今後確実に増加しますが、ほぼ全ての指定工場はID登録を完了し、 <u>OB</u> D検査の実施体制が整っています。
41	指定	● 完成検査時に <u>OB</u> D検査が不適合の場合、修理して、その後、2回目の <u>OB</u> D検査を実施することは可能か？	● <u>可能です</u> 。再検フローについて整理・周知します。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
42	認証	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子制御装置に関する知識や技術の不足が未だ自動車整備業界に多くみられる。認証工場における「OBD検査」時の事前「OBD確認」の「一部外注」を可能にしてはどうか？(外注に関する一定条件を設ける、「業務委託契約」のような書面を交わす等により) ● 完成検査に係る重要な検査の一環であるため、その真正性や安全性、責任などを担保する必要は当然あると思うが、電子制御装置整備にあるエーミングに関する諸事情と同様に作業内容や設備投資、また仕組みの理解に苦しむ整備工場も存在しており、現行の制度だと資金面や会社規模の大小により業界全体の格差が露見することが予想される事から「OBD確認」の部分のみ柔軟に対応できるものとし、整備市場活性化のための競争を抑制しない為にも、業界内で各分野が共存し、より安全で専門的な整備をユーザーへ提供できるよう「OBD検査」及び「OBD確認」に関する制度の柔軟性の向上及び緩和を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「OBD確認」のみの外注は、OBD確認の適切な実施と検査場における原則OBD検査省略に係る整備工場の責任が曖昧となるため、認められません。 ● OBD検査用サーバー利用の初期設定には一定の準備が必要となりますが、一旦設定が完了すれば、OBD検査／確認の実施は簡単です。 ● ご指摘の通り、整備技術の高度化への対応の可否により、業界内の格差が拡大することは望ましくないことから、車検の一部であるOBD検査(OBD確認)には、多くの事業者に対応いただきたいと考えております。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
43	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査用サーバーの障害等により接続できない場合における特例措置の適用方法について、<u>わかりやすい資料</u>が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、<u>わかりやすい資料</u>を作成します。
44	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査に係る意見交換会の際、認証工場は検査場でOBD検査を実施するので、<u>必ずしもOBD確認を実施する必要はない旨</u>を説明されている。 ● 確かにスキャンツールの購入などの負担に感じている事業者は安心しているものの、一方で、<u>OBD確認を実施する工場では、OBD確認に係る費用を請求するのに対して、OBD確認を行わない工場では、請求しないことになる。</u> ● 自動車ユーザーとしては、<u>費用を請求する工場の印象が悪くなると思われることから、制度がある以上、できる限りOBD確認は行うよう指導していただきたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認証工場によるOBD確認の実施は、法令上義務ではありませんが、<u>OBD確認を実施していただいた方が検査コースでの検査がスムーズになる等のメリットがあること等を周知してまいります。</u>
45	運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ● VCIの延長ケーブルに、<u>認定されたものであることを示すの型番などの表記がないため、認定品であるかどうかを確認することができない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて、各スキャンツールメーカーに確認ください。
46	運用管理センター	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>スキャンツール起因の問い合わせが増加傾向。</u> ● 過去事例からWindowsの設定を行うことで改善された事例については案内しているものの、Windowsの設定を行っても、解決しない場合は、スキャンツールメーカーを案内している。 <p>事象1: OBD検査実行後、終了しないまたは表示までに時間が掛かる。(7件)</p> <p>事象2: OBD検査実行時に、スキャンツールとの通信エラーが発生。(5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スキャンツール起因の問い合わせについては、各スキャンツールメーカーにおいて対応いただいておりますが、重大な問題があれば、行政においても指導やユーザーへの周知を行ってまいります。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
47	運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備事業者が実施したOBD検査結果を運輸支局で照会できるようにほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備事業者が実施したOBD検査結果等の情報は、自動車技術総合機構が保有するOBD検査システムに保存されているところです。 ● 運輸支局において、業務上これらの情報が必要な場合は、自動車技術総合機構と連携して対応してください。
48	軽検協	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備後にDTCを消去しなかったことが原因で、OBD検査不適合となったものがある。(DTCを消去して実施すると適合。) ● 整備事業者あてに、整備後は確実にDTCを消去して検査するように周知してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知します。
49	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD確認を実施済みの車両は、持込検査において優先的に検査コースへ入場できる等のインセンティブを付与してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査対象車の台数が増えてきた場合、検査コースの効率的な運用の観点からどのような取り扱いが適当か、検討してまいります。
50	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 中古車新規検査、中古車予備検査においても、OBD検査が必要ということを認識していない事業者がいるため周知を行った方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、周知について検討します。
51	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査システムの利用者追加(アカウントの追加)の問い合わせが多いため、OBD検査ポータルに動画を追加してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、OBD検査ポータルに分かりやすい資料の掲載を検討します。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
52	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>OBID検査システムにおけるID申請済整備事業場の一覧表の送付について9月末で情報提供が終了したが、引き続き情報提供願いたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該情報提供は、OBID検査開始までの確実な準備を目的とし、また、抽出・集計作業はシステムに負荷がかかることから、プレ運用期間までとしておりましたが、ご要望を踏まえ、システム負荷のかからない方法を検討し、提供できるようにいたします。
53	振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2025年10月にAndroid対応のアプリがリリースされる」との情報が独り歩きをし、「<u>来年の10月にすぐにスマホでOBID検査(確認)ができる</u>」と思い込んでいる整備事業者がいる。 ● アプリがリリースされても当然検査用スキャンツールの認定が必要だし、スマホでアプリが使えるようになったとしても、検査中に電話がかかってくるか、など不明な点が多い。「Android対応アプリのリリース時期」ではなく、「整備事業者がAndroid対応アプリを使ってOBID検査(確認)が可能になる時期」を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘のとおり、特定DTC照会アプリ(Android版)を利用するためには、当該アプリに対応した検査用スキャンツールの認定が必要となるため、利用可能となる時期について、現時点では未定となりますが、引き続き各ツールメーカーに開発の呼びかけを行ってまいります。 ● なお、Android版アプリの仕様に係る情報につきましては、マニュアルの作成等により、幅広く提供してまいります。

項番10関係

【オーテル製検査用スキャンツールの判定時間】

試験車両情報 車種:日産 NV350キャラバン 型式:3BF-VR2E26 類別区分番号:0061 登録年月:R4.5 OBD検査開始年月日(車検証):R7.2.13	検査用 スキャンツール 型式	ソフトウェアバージョン		接続方式毎の計測結果		
		ドライバー	ファーム ウェア	USB	Bluetooth	Wi-Fi
	MaxiVCI V200	2.02	1.22	11秒	24秒	-

【日本ベンチャー製検査用スキャンツールの判定時間】

試験車両情報 車種:トヨタ ノア 型式:6AA-ZWR95W 類別区分番号:0109 登録年月:R6.6 OBD検査開始年月日(車検証):R7.4.1	検査用 スキャンツール 型式	ソフトウェアバージョン		接続方式毎の計測結果		
		ドライバー	ファーム ウェア	USB	Bluetooth	Wi-Fi
	DT-3300	01.00	10.00	61秒	-	-
	VCI-510	01.00	01.00.00	117秒	-	-

【バンザイ製検査用スキャンツールの判定時間】

試験車両情報 車種:トヨタ ノア 型式:6AA-ZWR90W 類別区分番号:0157 登録年月:R6.9 OBD検査開始年月日(車検証):R6.10.1	検査用 スキャンツール 型式	ソフトウェアバージョン		接続方式毎の計測結果		
		ドライバー	ファーム ウェア	USB	Bluetooth	Wi-Fi
	MST-nano	1.08	1.84	12秒	22秒	-
	MST-nano2	1.08	1.85	11秒	38秒	-
	MST-7R	1.07	1.83	11秒	-	-
	MST-8R	1.08	1.86	11秒	38秒	-

項番20関係

OBD検査モード

事業場： 利用者：

メニューへ ログアウト

検査用スキャンツール 必須 DST-0

車検証 二次元コード読取

電子車 ICタグ

検査可否確認

結果

前回判

検査結果/確認結果

判定時刻

結果詳細表示

VCH情報

結果詳細CSV出力

帳票PDF出力

中止

次の車両 >

車両情報手入力

車検証を確認のうえ、受検車両の情報を入力してください。

車台番号^① 必須 S710V- x x x x x x 権打刻

型式^① 必須 3BD-S710V 改造車等^① 改

燃料の種類^① 必須 ガソリン

初度登録年月または初度検査年月^① 必須 なし あり 令和 4 年 11 月

類別区分番号^① 必須 なし あり

①

②

閉じる 確定